

21世紀に
伝えたい

ちば

の魅力

No. 1

紅葉の景勝地で知られる

栗又の滝

奥陽郡
大多喜町

展望台から紅葉ごしに眺める栗又の滝



滝音がすがすがしい新緑の頃

あわ また 栗又の滝ってどんな滝？

栗又の滝は県南部を流れる養老川の上流部に位置しています。150を越す房総半島の滝の中でも特に美観に優れ、新緑や紅葉(見ごろは12月初旬)のシーズンには県内外から多くの観光客やハイカーが訪れます。

正式名称は「高滝」で、別名「上総養老の滝」とも呼ばれています。落差15メートル。清流が滑らかな岩

肌を長さ100メートルにわたってゆるやかにすべり落ちています。その姿は優美で、昔から房総随一の名滝とされています。

バスの終点、栗又バス停の少し手前に県道から滝全体を見下ろせる展望台があり、色づいた楓^{かえで}ごとに滝を眺める絶好のポイントとなっています。

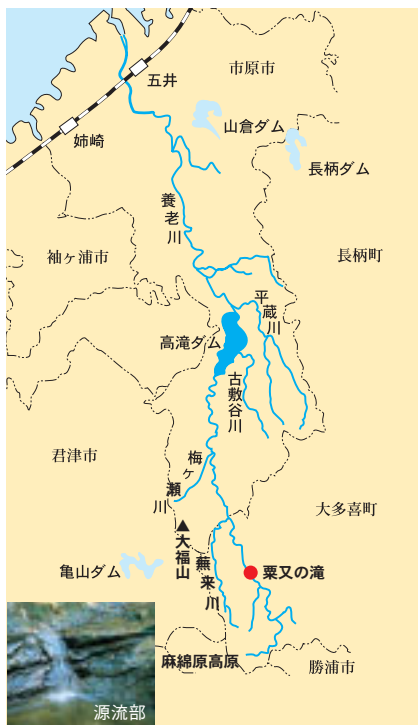


所在地 ■ 夷隅郡大多喜町
栗又
交 通 ■ 小湊鉄道養老深谷駅から小湊バスで20分、栗又下車(日曜・祝日のみ運行)

よつろ 養老川の源流はどこか？

栗又の滝を過ぎると養老川は^{みぎさらい}無来川や梅ヶ瀬川などの支流と合流、蛇行しながら高滝ダムを経て市原市を北西へ流れ、東京湾に注いでいます。延長約75キロメートル、流域面積246平方キロメートルの河川です。では、栗又の滝からさらに上流へ、養老川の源流へとさかのぼってみましょう。

滝の上流300メートルの地点に栗又橋^{あまじろ}があります。大正時代に大多喜町面白に造られた水力発電所はこの近くから取水していました。また、水の豊かな同町は明治3年に県内最古の大多喜水道が完成しています。養老川の流れて清澄山地の奥へと入っていくと、約5000年から7000年前の古代人が下流から移り住んだという会所^{かいしよ}という地区があります。さらにその先、栗又の滝から約7.7キロメートル上流にはアジサイの名所で知られる麻綿原高原があり、ここが



養老川の源流となっています。

どんな魚がすんでいるの？

養老川の源流部の標高は約300メートルと低く、上流域でも水温が高いために冷水性のイワナやヤマメなどは生息していません。養老深谷周辺では6月に解禁となるアユをはじめ、夏期にはカマツカ、年間を通じて多く見られるのがウグイ、オイカフ、シマドジョウ、ギバチなど清流にすむ魚が見られます。5月にはヤマベ釣り大会が行われ、秋にはファミリーに人気の釣堀センターでニジマス釣りが楽しめます。



六月のアユ釣り解禁の頃

必見! 幻の滝ってどこにある?

粟又の滝から下流へ2.7キロメートルの遊歩道が延びています。周囲は崖で頭上を覆うようなモミジの大木が点在し、鮮やかな姿を川面に映しています。

遊歩道から大小の滝が見られます。終点近くにある小沢又の滝は落差わずか8メートルですが、眺める方向によって四つの違う姿に見えるところから、神秘的な雰囲気漂わせています。また、季節や天候の変化によって消えたり現われたりするため「まぼろしの滝」とも呼ばれています。

滝近くにはイワツツジで有名な水月寺があります。正式名称「キヨスミツバツツ



「まぼろしの滝」とも呼ばれる小沢又の滝。幻想的な美しさで訪れる人を魅了します

ジ」といい、県内では清澄山系だけに見られます。大多喜町の天然記念物に指定されています。



水月寺の山門とイワツツジ

県内で落差No.1の滝は?

- | | | |
|----|--------------|------|
| 1位 | 大川の滝(安房郡千倉町) | 約40m |
| | 花輪滝(君津市) | 〃 |
| 3位 | 坊滝(安房郡三芳村) | 約33m |
| 4位 | 伊戸不動滝(館山市) | 約32m |
| 5位 | 塩浦の滝(安房郡白浜町) | 約30m |
| | ほか6カ所 | |

※景観の美しさでは3位の坊滝や、安房郡和田町の黒滝(落差7m)などが有名です。

滝近くで発見! 海浜植物 ハイハマボックス



ハイハマボックス(サクラソウ科)は一般的に海岸近くの湿地に生える珍しい植物。県内ではこれまで車茶利山(長生郡一宮町)でしか見られませんが、1993年に粟又の滝付近の崖で発見されました。絶滅の恐れのある植物です。

紅葉する木としない木の違いは?

養老渓谷の紅葉の見頃は関東地方でもっとも遅く、11月下旬から12月上旬です。なかでも梅ヶ瀬川に沿った梅ヶ瀬渓谷では、高さ30~50メートルもある垂直に切り立った浸食崖が約2キロメートルも続き、格好のハイキングコースとなっています。あたりの紅葉は、さまざまに色づいたイロハモミジ、コナラ、ハゼノキ、ヤマウルシなどの落葉広葉樹が主で、ところどころにスギ、ヒノキ、スダジイなどの常緑樹が際立ちます。

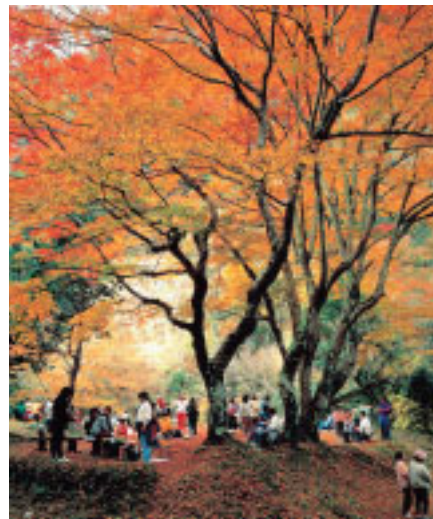


遊歩道脇の紅葉

落葉樹の葉は平らで薄く、面積の広いのが特徴です。秋になると太陽の光は弱く、気温も下がります。樹木は、水分を吸い

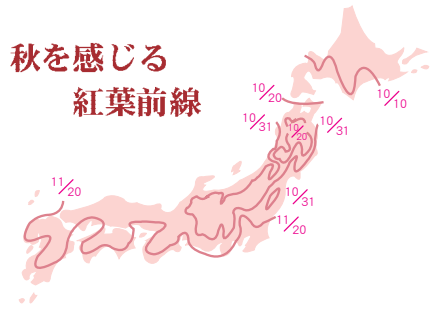
上げにくくなります。そこで落葉樹は、蓄積した水分が一番蒸発しやすい葉を落として自己防衛します。落葉の前には枝から葉へ水分や養分が十分に届かなくなるため、葉緑素が分解され、代わりに黄色い色素(カロチン)や赤い色素(アントシアニン)が合成されて紅葉するのです。

常緑樹は葉の面積が少ないので水が蒸発しにくく、日頃から少しずつ葉を落としてバランスをとっているために落葉せずに冬を越します。スダジイなどの常緑広葉樹は落葉しますが、その多くは春に若葉と入れ替わるように散ります。



梅ヶ瀬渓谷で一番の紅葉の名所「日高跡」

秋を感じる 紅葉前線



梅ヶ瀬溪谷周辺ハイキングコース



- 大福山・梅ヶ瀬溪谷コース
〈11.8 km 約4時間〉
養老溪谷駅(25分)→黒川(15分)
→女ヶ倉(60分)→大福山(60分)
→日高邸跡(50分)→女ヶ倉(30分)
→養老溪谷駅
- 養老溪谷一周コース
〈7 km 約2時間〉
養老溪谷駅(25分)→夕木台(10分)
→奥養老バンガロー村(25分)→
弘文洞(60分)→養老溪谷駅

森や溪谷の仲間を
見つけてみよう！



■カジカガエル(オガエル科)
体長約3~7cmで、平らで茶褐色または灰褐色のカエル。溪流沿いの森林に生息し、「ヒューフィフフィ」と口笛のような声で鳴く。



■ミルヤンマ(ヤンマ科)
体長約5~7cmで、模様が似ているオニヤンマの半分ほどの大きさ。薄暗い森の中の溪流に夕方に活発に飛ぶ。



■ガマズミ(スイカズラ科)
高さ約150~250cmの落葉低木で、葉はアジサイに似ている。林道沿いに見られ、小豆大の実を食べるとすっぱい。

歩いたあとは養老温泉郷

ハイキングの汗を流すなら
日帰り入浴もできる養老溪谷温泉郷へ。
養老川沿いに
ホテルや旅館が点在しています。



源泉/塩化物泉、炭酸水素塩泉
効能/神経痛、筋肉痛、関節痛、慢性皮膚病、慢性婦人病など
交通■小湊鉄道養老溪谷駅から小湊バス。または館山自動車道・市原ICから約36km

イベント

11/3(祝) 第18回大多喜町産業まつり
場所■大多喜町中央公民館
交通■いすみ鉄道大多喜駅下車



10/15(日)~11/25(土) 菊まつり
場所■養老溪谷温泉・ホテル岩風呂と出せ観音付近
交通■小湊鉄道養老溪谷駅下車

「朝市」毎月5と10のつく日
場所■大多喜町新丁夷隅神社境内(8時頃~12時頃)
交通■いすみ鉄道大多喜駅下車

11/23(祝) 養老溪谷もみじまつり
場所■大多喜町葛藤地先
交通■いすみ鉄道上総中野駅下車(送迎バス有)



★大多喜町観光協会 ☎0470-82-2111(代)
★大多喜町ホームページ <http://www.town.otaki.chiba.jp/>

